



不登校担当者研修会

6月14日(月)の15:30より、いのホールにて、不登校担当者研修会を開催しました。不登校担当者含め22名の参加がありました。

◇ 目 的

- ・ 先進的な取組を知ること
で、各校が組織的に
不登校防止対策を推進
する一助とする。



◇ 所長挨拶より(抜粋)

いの町の不登校の現状について、令和2年度の30日以上長期欠席数は小学校10人、中学校37人でした。これは、千人当たり小学校9.6人(全国7.0人)、中学校75.4人(全国36.5人)となり、全国を大幅に上回っています。いの町として不登校対策は重要な課題となっています。

そのためにも、本日の研修が充実したものとなりますようよろしくお願いします。

◇ 講 話

演題：「生徒理解と不登校の取組について」
講師：佐川町立佐川中学校 教頭 大原 留美

【生徒理解】

- ・ 突然学校を休み始めた事例より、失敗やつまずきは許されない、期待されている姿に必死に応えようとしてきたなどの過剰適応の子どもは、苦しさ等を抱えている。
- ・ 折り合いを自分なりに見つけながら成長していくものだが、うまく処理できない。
- ・ 担任や養護教諭等が関わりながら繋がりを保っていくことが重要。信頼関係を保ちながらとにかくつながりを保つこと。
- ・ 子どもの心の状態を推察し、子どもの疲れの理解(学校生活、学習面、社会面・対人関係、進路面等)に努めること。
- ・ 早期発見・早期対応の鍵は、支援者の協働(教員・SC・SSW・支援員・保護者等々)



【昨年度・今年度の取組】

- (1) 教職員の不登校に対する認識と対応力の向上
 - ・ ユニバーサルデザインに基づく、全ての子どもが「わかる」「できる」授業づくり
 - ・ 生徒指導の視点から、開発的生徒指導、生徒指導3機能を生かした授業づくり
- (2) 早期対応・早期支援の強化
 - ・ 情緒の安定を図るために、発達障害と二次障害を防ぐ。
 - ・ 二者面談を行う(担任以外の相談窓口も増やす)。
→ 学校教育相談で用いるカウンセリングの視点
 - 非言語的技法(視線・表情・声のトーン等)
 - 言語的技法(言葉がけ・感情の伝え返し等)
- (3) 校内支援の質的向上
 - ・ 教職員だけでなく、関係機関と連携を行い専門性に基づいた助言を具体的な支援へ繋げる。
- (4) 個に応じた切れ目のない適切な支援
 - ・ 児童生徒支援シートを活用し、中学校区内の小中合同の支援会を行い、研究所、支援センターとも一緒に共有を図る。
- (5) 関係機関との連携強化
 - ・ 先生方に情報等を発信する。また、窓口を広め先生方の相談・話も聞く。窓口の強化



【不登校への早期対応を考えるポイント】

- ・ 心の危機のサイレンに気づき、「不登校」という視点から子どもや親に関わる。
- ・ その子がどのような「必要性」で不登校になりかかっているかを把握する。

【登校行動の4つの条件】

- ・ 学校を休んではならないという内的規範
- ・ プラスの学校体験
- ・ 外へ向かうエネルギー
- ・ 学校生活に十分な社会的能力





◇「伊野中学校の取組について」

発表者： 伊野中学校不登校担当者
教諭 塩田 早智

【個々の状況に応じた切れ目ない適切な支援強化】
(事例より)

- ① 学校側の一方的な考えだけではなく、子どもの視点から考え、3年間を見越した取組の必要性
- ② SC・SSW等の効果的な活用を推進し、不登校等課題を抱える生徒やその保護者が相談しやすい環境の整備と、状況に応じた支援の充実
- ③ 支援を必要とする子どもを含む全ての子どもが、社会と繋がる力・社会で自立できる力を身につけることができるよう、多方面からの支援・繋がり強化
- ④ 関係機関との定期的な情報共有や相互連携による協働体制の構築

【令和3年度 新規不登校ゼロを目指して】

- ・ 初期対応の取組の充実
→校内支援会での発信・変容の共有、外部機関との連携
- ・ いの町教育支援センター「のぞみ教室」連携の継続
- ・ 個別支援策の充実
- ・ 未然防止に繋げる学校全体の取組強化
- ・ SCによる見取り
→支援の方向性を示し、全職員での共有化

◇未然防止のための各校の取組について情報交換【各グループに分かれての情報交換】



不登校担当者研修会の アンケートより

○佐川中の取組についての講話

- ・ 大変参考になった・少し参考になった
→肯定的評価 100%

◎理由

- ・ 今回の事例を通しての話は、ややもすると見逃されがちな子どもを丁寧に見ていくことや、子ども理解の視点、チーム支援での取組などを再認識するとともに、新たに取り組んでいきたい内容もあり、とても参考になりました。

○伊野中の取組について

- ・ 肯定的評価 100%

◎理由

- ・ 中学校での取組を担当の方から直接お聞きすることができ、小学校で何ができるか、どうつなげるのか、相談できる機会となった。

○未然防止のための各校の取組について

- ・ 肯定的評価 91.7%

◎理由

- ・ 他の学校現状やその対応を教えていただけたので、勉強になりました。
- ・ 時間が足りず、詳細まで聞くことができなかった。初期対応についても他校の取組が知れたらなと思いました。

○感想

- ・ 不登校の未然防止の取組で、エンカウンターやPA等の実践を聞いてみたいです。
- ・ 卒業間近ではなく、早い段階で中学校と児童の情報を共有していきたいと思いました。

※1学期には、各学校でi-checkを実施して、夏季休業中に分析をすることと思います。ぜひ、その分析結果を、2学期からの「不登校・いじめ等の取組」に活用してください。